

平成29年度第1回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

1 テーマ：多様な主体による美しく豊かな海づくり

2 日時：平成29年7月11日（火）

3 場所：笠岡市漁協荷捌所

4 参加者：笠岡地域において、アマモ場再生活動、環境保全や島しょ部の振興などに取り組む方々：7名

5 知事挨拶

・今回のテーマは、「多様な主体による豊かな海づくり」です。笠岡地域は、昨年5月には、「美しく豊かな海づくりに関する協定」を締結し、県と一体になって様々な主体が「豊かな海づくり」に取り組んでいただいているところであり、また、海づくりと一体となった地域活性化などの取組は、笠岡地域が有する島しょ部の魅力をより高めていると思っています。

・本日は、「美しく豊かな海づくり」に取り組んでおられる漁業者、団体の担当者、地域の活性化や観光などに取り組まれている皆様から、実情を教えてください、改善の可能性や、県としてどういった取組をすべきなのか等について意見交換し、今後の県政を進める上で参考にしたいと考えています。

6 発言内容等

〔それぞれの取り組みの概要等〕

・現在、漁業の現場では漁獲量の減少、魚価の低下、後継者不足という問題が生じている。そういった問題の解決のための一つ的手段として、資源管理型の漁業に取り組むとともに、今回集まっている方々とも一緒になり、アマモの再生活動にも取り組んでいる。

・昔から守ってきた海が疲弊し、漁業や地域の元気がなくなってきた。そういった中、このままではダメだという声が漁業の現場から出てきたことがきっかけとなり、「美しく豊かな海づくり」の協定締結につながった。

・カブトガニを守る活動を中心に行ってきたが、最近はそれだけではなく、高校生や子供と一緒にプランクトンの観察や透明度などの水質の調査を行っている。また、最近では、海ゴミの問題も顕在化してきたので、漂着ゴミの調査なども実施し、海の現状を子どもたちに伝える活動を行っている。

・沿岸では、環境問題が山積しているが、その原因の一つとして、研究者と現場の声が遠く、両者の情報が十分に共有されていないことが考えられる。そこで、現場で活動している人たちと研究者を一堂に集めて、学会やシンポジウムなどを開催している。

・地元で建設業を行っているが、地域への社会貢献や地元への恩返しという意味合いで、稚魚メバルの放流やアマモの再生活動、カブトガニの保護活動への

参加などに取り組んでいる。

- ・笠岡の沖合の六島で、「地域おこし協力隊」の一員として活動を行っている。六島は過疎化が進んでおり、小学生の数も少なくなった。将来的には定住者の数を増やしたいと考えているが、急に定住者を増やすことは難しいので、島に積極的に関わってくれる「交流人口」を増やすことに取り組んでいる。

- ・離島ツアー等を積極的に開催して、交流人口の拡大に努めている。白石島や真鍋島などでは高齢化が著しく、古くから継承されている祭りの開催すら難しくなっている。観光客の誘致のためには、地域の知名度を上げる必要があると思う。

〔取り組みや活動における課題・問題点等〕

- ・漁業者として、消費者に商品を責任をもって届けるため、流通形態の改善を行い、出荷する魚の価値の向上に取り組んでいる。取組開始時にはその価値を小売りが認め、高く買ってくれたが、飽きられてくるとそれが当然という形になり、単価が下がった。努力した分の価値を正しく評価してもらうのが難しい。

- ・どこかのNPO法人でも問題となっているが、常に、経費の面で不安を抱えている。まとまったお金を得ることができれば、系統だった活動を実施できるので、今回集まった人たちと一緒に、活動経費を定常的に得られるようにしていきたい。

- ・魚の放流を行っているが、その結果がなかなか見えないのが気になる。当初は、3年程度で成果が見えてくると聞いていたが、5年が経過して初めて成果が見えてきた気がする。成果がすぐに出ない活動に対しては、モチベーションを維持することが難しい。

- ・笠岡の離島では、祭りの時には人が帰ってくる。その中には、島への定住を希望している人もいるが、島での仕事が無いので諦めている。漁業をやってみたいという人もいるので、漁協の方で受け入れる仕組みがあれば、教えてほしい。

- ・笠岡に離島向けの船のターミナルができたが、笠岡駅と港までの距離が長くて、アクセスが悪い。歩道橋などがあって、距離が短くなると利用率も上がると思う。また、離島ではトイレが大きな問題となるので、その対応を考える必要がある。

〔今後、取り組んでいきたい内容や県への提案〕

- ・農業者と漁業者の間の交流会等を行いながら、農産物と水産物が一緒になったブランド作りに取り組んでいきたいと思っている。また、新しい水産加工品も検討中なので、新たな笠岡の名産品を目指して頑張りたいと思っている。

- ・笠岡の干拓地からの排水の影響を受ける場所では、アマモの生育も悪い。その排水の影響についても調べてほしい。
- ・海環境を良くする方法の一つとして、海洋牧場という考え方がある。一部の水質や底質の環境を変えて特定の生物を増やすのではなく、生態系全体をよくしようとする考えである。この考え方は、岡山県で始まったものだが、現在は国の基本的な環境整備の考え方となった。NPOとしても、この考えを基礎として、海環境整備の提案を行っていききたい。
- ・山と川のつながりは非常に重要だと思っている。今後、このつながりを深めていくような活動に取り組んでいきたいと思っているので、人と人をつなげる役割を県に果たしてほしいと思っている。
- ・山と川のつながりが失われて、川から供給される栄養が無くなった結果、ノリの色落ちや水産資源の減少が生じたと聞いている。これからは、植樹等の山の環境を整備することについても考えていきたいと思っている。
- ・漁業は観光資源の一つとして注目されているので、観光のツアーの中に、地引き網などの漁業体験といったメニューを入れることを考えてみたい。

7. 知事まとめ

- ・販売やブランド化を考えながら、漁業を行うという視点は重要。自分たちの努力がどう成果に結びついているかがわからないと疲れるし、コスト割れになっても厳しい。そういったことを意識しながらチャレンジすることが大切だと思う。
- ・小さなチャレンジの場合、失敗してもリスクは少ない。いきなり大きなことをやるのではなく、色々な試みを行い、その反応を見ながら進めていくことが重要だと思っている。
- ・生産者の努力に見合った販売価格を維持することは難しい。また、消費者のニーズを考慮せず、間違った方向に努力をして、価格に反映されないことも多い。県にもマーケティングを行う部門もあることから、一緒にアドバイスをしながら、取り組んでいければと思っている。